明日を語ろう！

# 北の農業人

KITANO NOUGYOUBITO

北海道農業に限らない愛情を注ぎ、たゆまぬ努力を続ける人々がいます。農業の未来を創造する「北の農業人」の情熱や取り組みをご紹介します。

●牛舎は牛が自由に動き回れるフリーストール方式。飼料は牧草とコーンを与えています。

●ゆとりと喜びの酪農をめざして

## 法人化、機械化で高めてきた乳質の良さが安定経営のカギ。「兄弟でカバーし合い、常にベストを尽くしてきたから今がある」

［中標津町］

有限会社小沼牧場
代表取締役
**小沼　悟**さん

### ピンチをチャンスに変えて酪農への挑戦

根室管内の中部に位置する中標津町は、根釧原野へと繋がる緩やかな丘陵地を利用した酪農業が盛んです。小沼悟さんはこの地で生まれ育ち、父親の跡を継いで長年農業に携わってきました。「元々はジャガイモやビートなど畑作がメイン。牛はたい肥への利用目的で飼育していた程度だったね」。

そんな小沼さんに転機が訪れたのは平成7年頃のこと。冷害、災害によるジャガイモの被害を受け、2人の弟さんと共により安定した収入が見込める酪農業への転換を決意しました。「今思えばいいきっかけだった」と小沼さんは笑いますが、専業で行うにあたり、当初はさまざまな苦労があったそうです。しかし、農業改良普及所や農協職員の方々のアドバイスに耳を傾け、困難を乗り越えてきたといいます。

「教えてくれるのは全部プラスになること。だからやれることはやってみなくちゃ。何でも勉強だよ」。謙虚な姿勢と着実な行動で時代の荒波を乗り越えてきた小沼牧場は、現在地域の1戸平均の3倍以上となる約360頭の乳用牛を飼育し、年間約2千300tの生乳を出荷しています。

### 確実な品質管理が経営の安定化には不可欠

中標津町農協では独自の厳格な品質基準をクリアした生乳を「バイクオリティミルク」と称して、農協オリジナルの乳製品に使用しています。小沼牧場はこのバイクオリティミルクを出荷する優れた農家です。

乳質を左右する要素のひとつである生菌数の抑制には、搾乳後の品質管理が重要といわれています。小沼牧場では平成9年度に国の助成事業を導入し、法人化とともに施設設備の整備を進めました。その際に導入した12頭ダブルのミルキングパーラーシステム、プレートクーラー、バルククーラーなど、搾乳理論に適したシステムで、搾乳後の生乳は短時間で細菌が繁殖しづらい4度まで冷やして貯蔵します。

搾乳はシステムの設定時間に合わせて行います。「機械に使われているようなもんだ」と笑いながらも「機械はミスもごまかしもないからね」と語る小沼さんの目は真剣です。乳質の評価は乳価に直結します。

牛の管理同様、搾乳後の生乳の管理は農家にとって大切なポイントなのです。システムでは搾乳された牛の体に付けられたタグを読み取り、記録・管理するのでトレーサビリティーの面でもメリットがあります。法人化、機械化は、高品質で安心・安全な生乳を出荷し続け、経営の安定を図る上で大きな意味を持つ出来事でした。

### 兄弟家族の「和」が喜びの酪農を生み出す

牛舎の中に入ると、くるくると回転するブラッシングマシーンに牛が自ら身を寄せていました。ブラッシングも温度管理のための扇風機も自動制御。機械を利用した効率的な生産体制が整っているのが、小沼牧場の特徴です。

●仲の良さは地域でも評判の三兄弟。長男の悟さんは経営全般、二男の勝さんは飼料関係、三男の清さんは牛の管理と、役割分担が自然とできているそうです。

もっとも、すべてが機械化できるわけではありません。1日2回のえさ寄せとふんの処理、1週間に1回の敷きわらの補充などは人力です。「生物相手だから仕事は毎日あるけど、休みたい時にはちゃんと休んでるよ。休みがあるからこそ、仕事にも目標や張り合いが生まれるしね」と小沼さんは言いますが、手を抜けば乳質にそのまま跳ね返るのが酪農の怖さ。笑顔で兄を見守る弟の勝さんと清さん、3人が絶妙にカバーし合い、絶え間なく努力を続けてきたからこそ、ゆとりを持ちながら抜きんでた品質の生乳を出荷できているのだということが感じられます。

いつも支え合って仕事に励んできた父の背中を見て育ってきた息子たちも自然と家業を継ぎ、現在社員数は9名となりました。「人手も増えたし、もっと規模は拡大したいね。自分にかかる責任は重いけど、休みも好きに決められるし誰かに叱られることもない。この仕事は本当にいい仕事だと思うよ」。そう力強く話す小沼さんの笑顔には、酪農への誇りと、共に働く家族への愛が溢れていました。

●小沼牧場の牛はすべてホルスタイン。「なるべく一年一産をめざして飼育を行っているよ」と小沼さん。現在搾乳可能な牛は220頭ほど。

●1回の搾乳にかかる時間は約2時間。1時間で100頭ずつ、計200頭の牛から約3500tの生乳を搾ります。

●搾乳は朝の4時と夕方4時の2回。時間になると牛を牛舎からパーラー室に移動させます。横に沿って入ってきた牛は自然と定位置に並ぶ仕組みです。